【日本の大学】第８８回―静岡大学：自由な気風と平和な未来創成掲げる

静岡大学は、本州のほぼ中央、太平洋側に面した静岡県の県庁所在地、静岡市に本部のある中堅の国立大学である。学部は文系・理系の６学部と全学横断型教育プログラムである地域創造学環の体制だったが、2023 年度からは新たに、グローバル共創科学部が加わった。本部のある静岡市のほかに、浜松市にもキャンパスがあり、工学部、情報学部と関連の大学院の学生が学んでいる。全学では、学部生、大学院生など合わせて１万人を超える総合大学である。

理念としては、新制大学統合前の前身校の自由な気風を受け継いで、学生の主体性に重きを置いた「自由啓発」と、地域の課題や地球規模の諸問題に果敢にチャレンジし、人類の平和と幸福を追求し、希望に満ちた平和を創り出す「未来創成」を掲げている。

静岡キャンパスと富士山

以下、静岡大学のホームページを参照しながら、大学の歴史と現況をみていこう。

大学が誕生したのは 1949 年である。旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の 5 校を統合して 6 月 1 日に発足した。スタート時点では、教育学部、文理学部、工学部の 3 学部だった。その後、1951 年には、県立農科大学（磐田市）が国立に移管されて農学部となり、1953 年には、工業短期大学部（浜松市）、1955 年には、法経短期大学部が併設され、この時点で大学は、4 学部、2 短期大学

部を持つ総合大学となった。（短期大学部は 1997 年、1999 年に廃止された）

前身で最も歴史のあるのが静岡師範学校で、明治時代の初め 1875（明治 8）年に設立された。浜松の師範学校は 1914 年に誕生した。師範学校はその後、県尋常師範学校、県師範学校などと校名が変更された後、1943 年には、静岡第一師範学校、浜松にあった浜松師範学校を静岡第二師範学校にそれぞれ校名を改めた。これとは別に 1926 年に設立された県立農業補習学校教員養成所が 1944 年に静岡青年師範学校（島田市）となり、この 3 校を包括した形で新制静岡大学発足の 1949 年に教育学部となった。

浜松キャンパス

師範学校や旧静高の伝統継ぐ

教育学部は発足当時、静岡教場、三島教場、浜松分校、島田分校に分かれていたが、静岡教場が 1951 年に廃止されたのを手始めに三島教場、島田分校、浜松分校が次々に廃止された。代わって 1966 年に教育専攻科が設置され、1970 年には静岡市大谷の新校舎に統合移転した。現在は、学校教育教員養成課程の中に、国語、社会科、数学など各学科教育専修のある教科教育学専攻と、発達教育学専攻（教育実践学専修、教育心理学専修、幼児教育専修）、初等学習開発学専攻、養護教育専攻、特別支援教育専攻という計 5 専攻課程があり、多様な学校の先生の育成に当たっている。

文理学部の前身は 1922 年に誕生した旧制の静岡高等学校である。静岡高等学校は、当時

の静岡市北郊安東村に静岡市が寄付した 2 万坪（約 6 万 6 千平方メートル）の土地を敷地として設立された。旧制静岡高等学校の伝統を受け継いだ文理学部は、人文科が哲学、史学、国文学、英文学、独文学、法学、政治学、経済学の 8 専攻、理科の甲類が数学、物理学、化学、生物学、地学の 5 専攻のほか。医学進学課程（20 名）を含み、同乙類は工学部に進む学生の課程だった。このうち医学進学課程は 1953 年に廃止され、その定員 20 名は理科専攻課程に繰り入れられた。また、乙類は 1959 年に廃止されている。1955 年に人文科は、8 専攻のうち 6 専攻を人文科に、残りの 2 専攻を法経学科へ改組した。

文理学部は多くの専攻課程を擁して研究、教育活動を行ってきたが、それぞれの専門的学術の研究、教育には不十分であるとして学部改組の検討と運動が続けられた。その結果、1965 年に、人文社会科学部と理学部に改組し、別に前期 2 年の教養課程教育のための教養部を設置することとなった。

キャンパス風景

人文社会科学部は、発足当初、人文学科（哲学、日本史学、外国史学、国文学、英文学、独文学、仏文学の 7 専攻）、法経学科（法学、経済学の 2 専攻）の 2 学科だった。その後、定員の拡充、学科の改組、社会学科の新設・改組などが実施され、現在は、社会学科（人間学、社会学、文化人類学、歴史学）、言語文化学科（日本・アジア言語文化、欧米言語文化、比較言語文化の 3 コース）、法学科（公法、民事法、社会法、法政理論）、経済学科（経済理論、財政金融、非核政策、経営情報）の 4 学科体制となっている。1995 年には　法学科と経済学科に夜間主コースも設置された。

理学部は 1965 年、文理学部の改組によって発足した。1975 年には地球科学科が誕生、76 年には大学院修士課程（理学研究科）が新設されている。2006 年には、学科と大学院の再編成を行い、学部では、数学科、物理学科、化学科、生物科学科、地球科学科の 5 学科となり、2016 年からは創造理学（グローバル人材育成）コースという教育プログラムを設置している。自然の真理の解明という人類共通の夢に向けて、その探求に情熱を傾け、幅広い分野における科学の進展と応用を目指して教育と研究を進めること。さらにそれにより人類の幸せに寄与すること、を理念として掲げている。

理学部

ものづくり都市の一翼担う

工学部は、1922 年に設立された浜松高等工業学校が前身である。ものづくりを基盤とした「基礎力と実践力を備えた人材育成」「地域とともに世界に羽ばたく研究」「地域社会・産業社会への貢献」を通して、社会から期待される学部を目指している。校舎は県の西部の中心、浜松市にある。この地域はものづくりが盛んな地域であり、「やらまいか」精神の下、トヨタ、スズキ、ホンダ、日本楽器（現在のヤマハ、ヤマハ発動機）などの創業者を輩出し、自動車産業や、近年では光・電子技術関連の高度な技術の集積が進んでいる。

静岡大学工学部もその歴史の一翼を担っている。現在、基礎的・先進的な工学分野である五つの学科（機械工学科、電気電子工学科、電子物質科学科、化学バイオ工学科、数理シス

テム工学科）で構成されている。

県立農科大学が移管されて、農学部が発足したのは 1951 年である。「生命現象」を軸に、生物学、化学、物理学、地学を基礎とした科学技術の教育研究を行っている。活動領域は、植物科学、バイオテクノロジー、環境科学、食品栄養化学、材料工学、生物化学、土壌学、微生物学、経済学など、基礎から応用にわたる幅広い分野に及んでいる。学科には生物資源科学科と応用生命科学科の二つがあり、幅広い分野をカバーしている。

農学部総合棟

情報学部は 1995 年、日本の国立大学では初めて情報学を専門とする学部として発足した。工学部にあった情報系学科（知能情報工学科）から発展した情報科学科と、新たに開設した文科系の情報社会学科の 2 学科でスタートした。「文工融合」を目指した学部であり、2016 年には、行動情報学科が加わって 3 学科の体制となっている。情報科学科では、AI や IoT を始めとする ICT や数理から脳・認知に至る最先端テクノロジーを学ぶ。情報社会学科では、SNS などの情報メディアや社会コミュニティの調査・分析を通して情報社会の現状を学ぶ。行動情報学科では、新時代の情報システムを戦略的に構築するデータサイエンスや情報マネジメントを学ぶ。

学部横断型組織として 2016 年にスタートしたのが地域創造学環である。「魅力的で持続可能な地域社会づくり」に貢献できる人材の育成を目的に開設された。大学のすべての学部の授業を履修することができ、幅広い教養と高い専門知識を身につける。カリキュラムの中心は県内各地における「フィールドワーク」である。積極的に地域（フィールド）に飛び出して学んでいくことが大きな特徴である。1 年次後期から 3 年次の終わりまで、地域経営、地域共生、スポーツプロモーションなど五つのコースの中から、自分の関心に合ったコースを選択し、専門性の高い知識と能力を身につけていく。一つのフィールドに継続的にかかわり、そこで自ら課題を見出し、地域の人々とともに考え、その解決策を模索していく。同時に、静岡大の中で開講されている授業科目の中から、自ら見出した課題の分析・考察に必要な科目を選んで履修する。4 年次のゼミでは、卒業論文や卒業制作を通して、自らの学びと探求の成果を形に仕上げていく。

大学図書館

地球と地域の課題にアプローチ

2023 年 4 月に発足したのが、グローバル共創科学部である。現代社会は地球規模の課題である気候変動問題や地域社会の重要課題がある地方創生・地域活性化など、複雑かつ深刻な問題に直面している。それらが互いに影響しあいながら、ますます複雑化し、解決が困難になっている。そうした社会課題を乗り越え、持続可能で安全な社会を実現していくには、一つの学問領域の専門性を深める従来型の大学教育では限界があるのではないか。そうした思いから実現した学部である。

新学部では、文理の垣根を超えた幅広い基礎的知識を学び、課題解決に必要な専門的知識をつないで社会へ活用できる洞察力を養う。現場に入り込んで主体的に課題解決に取り組むことができる行動力、立場や価値観が異なる他者と粘り強く対話し、課題解決に導くことができるコミュニケーション力、グローバルな課題とローカルな課題を結び付けて考察する力などの「総合知」が求められている。海外研修、英語科目、データサイエンス、フィールドワークなど独自のユニークな教育プログラムを用意し、いろいろな角度や視点から課題にアプローチできるような態勢を整えている。

共創科学部のスタートによって、新年度からは地域創造学環の学生募集は停止した。新学部は地域の問題に、地球規模の課題を加えることで、地域創造学環が担ってきた役割を発展的に継承したものだといえよう。

国際化・国際交流の関係では、2017 年 10 月に全学的な組織として国際連携推進機構を設けて検討、推進を行っている。基本方針として（1）地域の国際化と一体となった持続的な国際化を推進する（2）グローバル人材の育成と国際化における地域のハブ、海外のハブとして機能する（3）グローバル教育の実施と環境整備を行い、国際志向の学生に選ばれる大学を形成する（4）国内外の大学とのコンソーシアム、および地域との共同体制のもとに、国際的な教育・研究活動を協働運営する――としている。

国際交流

こうした方針に沿って、全学の国際化、留学生の支援・受け入れ、日本語教育、国内学生の海外派遣とその準備教育、協定の締結・海外ネットワークなどを進めている。大学間協定としては 28 か国の 64 大学との間で協定を結んでいる。海外からの留学生は、学部・大学院を合わせて、アジア地域を中心に 410 名である。（2023 年 5 月現在）

学生数は学部学生が 8447 名、大学院生は修士課程が 1299 名、博士課程（後期 3 年のみの課程）が 206 名などである。また、教職員数は 1126 名（うち事務職員等は 336 名）である。（いずれも 2023 年 5 月現在）

静岡大学は、2019 年に国立浜松医科大学との間で、両大学の法人を 2021 年度までに統合するとの合意書を交わしている。内容は、工学部と情報学部を持つ浜松市の静岡大学浜松キャンパスと浜松医科大学を統合した新大学と、人文社会科学部など 4 学部ある静岡市の静岡大学静岡キャンパスから成る新大学を 2022 年度に設立するというものだった。大学当局によると、時期はずれ込んでいるものの、両大学の協議は現在も続いているという。

静岡大学の現在の学長は、日詰一幸氏である。1986 年名古屋大学法学部卒、同大学院博士課程を経て、静岡大学では 1996 年人文社会科学部助教授となり、同教授、人文社会科学部長などを経て 2021 年から静岡大学第 16 代の学長に就任した。専門は行政学、地方自治論、NPO 論など。

日文：滝川　進
写真：静岡大学 HP